



平成 19 年 7 月 17 日 発行

事務局 飯能市生活安全課内
☎ 973-2111 内線 178

埼玉県西部地区消費者団体交流会

埼玉県西部地区消費者団体交流会に参加しました。

平成 19 年 2 月 27 日 1 時半より川越地方庁舎で行われた交流会及び講演会に、会より 4 名で参加しました。この交流会は、埼玉県西部地区に位置する各自自治体内の消費者団体が交流と学習の目的で毎年一回行っているものです。今年

の交流会では
・ 坂戸市学校給食を考える会と毛呂山町くらしの会が合同で「牛乳パックで作るせっけん実演」
・ 新座市消費者展実行委員会が「食について」と題して遺伝子組み換えの視察研修内容

川越新日本婦人の会が「活動と紹介」
・ 所沢市消費者団体連絡会が「消費者被害にあわないために」と言う内容で各々パネル展示と発表がされました。

講演会は、埼玉県環境部青空再生課の奥野慎さんを講師に、「化学物質と私たちの暮らし」というテ

ーマで行われました。

身の回りの化学物質とは？と考えてみると、私たちは化学物質に囲まれて暮らしていることに気付きます。プラスチック製品、車、家電製品、衣類、洗剤、化粧品等々。

私たちは化学物質によって便利な生活に浴していますが、その化学物質によって健康被害や環境汚染をもたらしています。(ハウスシック症候群から大気汚染、地球温暖化まで)

一人一人の取り組みとしては、車の利用を控える、地元の食材を買う、洗剤等の適量使用が話されました。

講演のあとの質疑では、飯能市消費者団体連絡会から参加していた団体せせらぎ(クリーンセンター)内で廃油から手作りせっけんを作っています(メンバーから「数年前に埼玉県が《県の施設での石けんの使用をすすめよう》と呼びかけた事があり、今後もうこうした働きかけをして欲しい」と要望しました。

飯能消団連・夕涼み映画会

映画「戦争案内」上映時間 60 分

高岩仁 監督

◇ 日 時 8 月 26 日(日) 午後八時半開場〜九時

◇ 場 所 美杉台公民館視聴覚室

※ 上映後、高岩監督のお話があります。

観覧ご希望の方は「自由」に会場下さい。

消費者団体連絡会の勉強会(6月11日)

食の未来ー大塚のぼるの講演会

「世界の飢餓を救うため」と、危険性についての検証がなされないまま、遺伝子組み換え作物の栽培が推し進められている。

1998年カナダの農民が Monsanto社から特許侵害で訴えられた。判決は、5:4で Monsanto社が勝訴した

・ そこに生えていたことが特許の侵害、なぜそこに生えていたのかは問題ではない。
・ 本意に混入したもので、出来た作物は Monsanto社の物

・ 特許の権利は、農業者の権利を上回るというもの。
・ 農家が汚染を防ぐことは困難で、自家採種を禁じられ、農業を続けるためには種子を買わなければならない。Monsanto社は密告を奨励し農家を次々に告訴した。和解条件は内容を口外しないことであり、裁判で闘うには多額の費用と労力が必要だった。

『アメリカでは政府と企業が癒着していて、Monsantoやその子会社の役員が高級官僚として入り込んでいる。上級顧問経験者が「遺伝子組み換え食品の規制は一切しない」とした競争力委員会の委員になっており、副社長と米環境保護長官を何度も繰り返し返した人もいる。米食品医薬品局は遺伝子組み換え食品を安全としているため、表示義務も無い。危険を指摘する研究者は補助金を打ち切られ、抹殺されてきたため、メディアからは安全情報ばかりが流されている。豚のワクチンを作

るための遺伝子に汚染されたトモロコシ23000トンが廃棄されるという事態も起こっている。アメリカは多額の補助金を支給して農産物を生産コストより安い価格で輸出をしていて、汚染は国境を越えて広がり生物世界全体への深刻な影響が懸念されている。』

生命の企業支配が進んでいる。種子の特許化は遺伝子組み換えから、地球上のあらゆる生命体にひろがり、このままでは食料・薬として元々身近にあったものも特許料を払わなければ使えなくなる。企業は種子から肥料・農薬・生産機械・加工・流通までを握っているため、農家は農業への決定権が持てず、補助金と副業で成り立っているのが現状で、家族農家は減少している。

飢餓は元々自給していた人々が自給生活を続けられなくなってきたこと。生産性は向上しており、生産の問題ではなく配分の問題だ。

市民が情報を持たなければ権利も行使できない。今、安全な食品と自然と地域を支える持続型の農業への関心から、小規模家族農業、有機農業への関心が高まってきている。

※ DVD 「食の未来」 決めるのはあなたです

米国ドキュメンタリー映画「The Future of Food」(米 Lily Film 2004年)デボラ・クーンズ・ガルスニア監督の日本語版。2006年日本有機農業研究会製作

飯能消団連の講演会

環境、食への私の想い、すべては平和のために

講師 環境カウンセラー 印南 幸雄氏

(平成19年3月17日総合福祉センター研修室)

暖冬も終わりに近づいた暖かい土曜日の午後、当市美杉台在住の印南幸雄氏をお招きし、表題の講演をスライドを使って、大変解りやすく伺うことが出来ました。

要点を3つに絞り、「お金」、「食べ物」、「ゴミ」の観点からみていきます。

I 「お金」の問題

私たちの豊かさはどうやって獲得してきたのか。経済大国になった日本の今までの過程を振り返ってみます。

資本主義の幕開けとして、大東亜共栄圏構想がありました。時の総理・伊藤博文は財界等からお金を出させ、反対する議員を買収していきま

す。資源小国日本は、近隣のアジアに侵出していくために、軍隊強化、民主化運動の弾圧などを重ね、2・26事件後は更に戦争に突き進んでいってしまいました。敗戦後の朝鮮戦争、ベトナム戦争から特需景気の恩恵に浴し復興しました。日本人の勤勉、低賃金に欧米は反発、1985年経済上の手ごわい強国になりつつある日本に、

プラザ合意(固定相場制を変動相場制に変える。1ドル=360円を崩していく。)を認めさせました。経済的苦境に立つ日本がとつた次の手は、ODA(政府開発援助)でした。

途上国発展のためという名目とは裏腹に日本はお金(郵便貯金、年金が財源である財政投融資)を貸してあげて(米・欧は無償援助が基本である。)アジアから食料、天然資源を安く輸入するもちゃんと返済してもらえないように縛りをいれています。

例えば、アルミニウム(インドネシア産)について言及すると、日本はアルミ鉱山に精錬所を作り、全部日本にただ同然で輸入できるよ

うにしたり、現地住民を強制移住してダムを作ったりしました。日本の経済侵略と言われた所以です。私たちが安く物を買える仕組みがみえてきますね。

1983年以降、先進国にお金を返している途上国は借りたお金の3倍以上を返しているが、借金はなくなりません。そこでIMF(国際通貨基金)が途上国に融資し、構造調整プログラムを押し付けましたので、途上国は更に苦しくなり貧困は長引くばかりです。構造調整プログラムの条件は主に4つあり、①通貨切り下げ、②公共事業や福祉の切り捨て、③換金作物の奨励、④税の導入という厳しいものです。

全世界でこのプログラムの対象国は110ヶ国にも上り、更に増加している恐れすらあります。110ヶ国は、先進国から指定された18品目程度に生産を集中するのでこれらの資源の価格が下がり、私たちは安く物が買えるようになり、食料、天然資源を食べ放題、使いたい放題、捨て放題の生活をしていきます。輸出しない自由を奪われた途上国の飢餓、政情不安、難民、テロなどの苦しみは一向に減らない訳です。そして公害も途上国に押し付け、海外生産で安く輸入し、私たちは安全な生活に浸っています。

II 「食べもの」の問題

日本は1985年のプラザ合意(1ドル=360円の崩壊)後、食糧自給自足の政策から工業中心の政策に変更しました。その結果食糧自給率は40%以下に落ち込んでしまいました。大丈夫でしょうか?他国は日本にいつまでも食糧を輸出してくれるでしょうか。10~15年後には、世界は食糧の奪い合いになってしまふのではないのでしょうか。

日本の食糧輸入先は大部分を米国に依存しています。実は米国やEUは食糧を武器(戦略物資)として捕らえており、余剰食糧援助と引き換えに被援助国に武器を買わせようとする法律もあるというこ

とは驚きです。また、なぜ途上国より先進国のほうが食糧を輸出できるのでしょうか。一人当たりの農業従事者に対する補助金の額に大きな違いがあり、先進国は補助金をたっぷりつけて自国農民を保護しつつ、ガット協定では食べものに関税を課税するのを規制するなどしているからです。債務返済に追われる途上

国は自国農民に補助金をだすどころではありません。

III 「ゴミ」の問題

日本はリサイクル社会を造ろうとしています。しかし回収は好調だが再利用は進んでおらず回収品(ペットボトルなど)がそのままの形で溢れています。リサイクル社会は機能していないのではないのでしょうか。資源が無い国であるのにリサイクルペーパーよりバージンペーパーの方が安かったりします。なぜでしょうか?輸入資源(木材パルプなど)の価格低落傾向により、これが可能となる仕組みが見えます。これでは輸入し輸

出「ゴミ」全量リサイクルの図式は不可能です。全世界の大型焼却炉2300のうち資源小国の日本に驚くことに1700以上もの炉があるという異常さです。

かつてゴミは資源だといって後進国に輸出したら大問題になったことがあります。フリリッピンではゴミの山で働く子どもたちがいますが、捨てられていた注射針などで破傷風にかかり死亡するなど痛ましい限りです。地球温暖化、ゴミの問題、食糧問題などはすべてつながっています。

お話を聞いて、先ずこのよ